

# 「かなユリ・チャレンジ」プロジェクト

社会福祉法人進和学園 しんわろネッサンス 施設長  
瀬戸 利彦

社会福祉法人進和学園（神奈川県平塚市）は、特別支援学校を卒業されたばかりの若者から98歳の高齢者まで、知的障害のある方々を中心に約500名の皆様にご利用いただいています。私が施設長を務める福祉工場「しんわろネッサンス」は、就労系施設の拠点として、ホンダさんから受注する自動車部品の組立を核として、農産品加工や地元スーパーへの施設外就労等、様々な作業種に挑み多角化を推進しています。

ドングリや木の実から苗木を育て植樹活動を実践する「いのちの森づくり」もその一環ですが、森林再生を目指すこの取り組みがご縁で、2017年の秋、公益財団法人かながわトラストみどり財団さんより助成を受けて、「ヤマユリ」の花を再生する取り組みを開始しました。

「かなユリ・チャレンジ」プロジェクトと名付けられたこの取り組みは、2016年7月26日に起こった「津久井やまゆり園」での痛ましい事件を受けてスタートしました。障害のあるお子様（45歳）の将来を案ずるお母様（80歳）から、かながわトラストみどり財団に一通の手紙が届きました。昔は各所に見られたのに、すっかり姿を消してしまった神奈川県の花「ヤマユリ」を増やすことで、悲劇を悼み多くの人々の心



ヤマユリが咲きました！ 「しんわろネッサンス」にて（2018年7月4日）

の癒しとしてはいかが？というご提言でした。財団さんからこのお話をうかがい、大変意義深い取り組みであり、私たちが「ヤマユリ」の栽培を請け負わせていただくことになったのです。



見事に開花したヤマユリに鎮魂の願いを込めて！（2018年7月4日）

植樹用の苗木と異

なるノウハウや注意点も多いため、不安と期待を抱きつつ、まずは自然種の「ヤマユリ」の球根5粒を譲り受け、イノシシの被害を受けない明るい日陰を探して福祉工場の中庭に植え付けました。昨年春、4株の発芽に気付いたときは、「ヤマユリの芽が出た！」と、一同大感激！ その日の朝礼のメインテーマとなりました。球根がまだ小さかったため、花はつかないだろうと言われていましたので、その後、小さなつぼみを3つ授かったことは大きな喜びでした。あの事件への追悼の念を、ヤマユリ自体が受け止めて精一杯頑張ってくれたようにも感じました。7月初旬、ヤマユリは、見事な大輪の花を続けて咲かせました。華やかな花弁と芳醇な香りを存分に楽しむことができました。

現在、財団のご指導の下に、球根からの栽培は2期目を迎えています。今年からは、種子と鱗片および木子（小球根）からの栽培にも着手、発芽した幼苗の生長を、皆で遣り甲斐を感じながら見守っています。

福祉工場の中庭に咲き誇る「ヤマユリ」を、無念な事件により犠牲となられた方々への鎮魂と、福祉に携わる仲間として決してこのことを忘却しないことの証としたいと思います。